

## 検定試験の第三者評価 【公式版】総括評価 評価結果

- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| 1. 対象検定試験 | 実用数学技能検定               |
| 2. 実施運営団体 | 公益財団法人 日本数学検定協会        |
| 3. 評価結果   | 第三者評価【公式版】総括評価に合格し認証する |
| 4. 評価有効期間 | 2028年3月まで有効とする         |
| 5. 評価講評   |                        |

### ●大項目Ⅰ 検定試験の実施主体に関する事項

検定試験の目的は明確であり、検定事業を継続的・安定的に実施するために必要な組織体制、規定が適切に整えられている。財務経理情報は適切に整備され内部監査だけでなく外部監査も定期的に受けている。検定試験に関する情報はHP等に公開されている。個人情報保護については、個人情報保護方針、情報セキュリティ基本方針が公開され、Pマークも取得している。また、自己評価の毎年の更新と定期的な第三者評価の受審など、PDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に事業の改善に取り組んでいる。

上記の評価を基に、下記の実績を評価して5点加点とした。

- ①事務処理体制、危機管理体制、内部チェック体制が整備され、検定事業実施主体として適切な組織・体制が確立されている。(2点)
- ②Pマークの認証を取得し、厳正な個人情報管理を行っている。(3点)

### ●大項目Ⅱ 検定試験の実施に関する事項

受検手続、問い合わせ窓口等の受検に必要な情報はHP等に公開されている。受検上の配慮が必要な受検者への対応方針が定められ、公平に受検できるように配慮されている。外部の第三者による検定問題の品質管理を行うなど、作問・審査体制が整えられている。検定実施要項等、試験会場運営のマニュアルが事前に試験運営関係者に配布され、検定試験が適正かつ公正に実施できるよう配慮されている。

試験実施については、試験実施会場の実地調査を行い、実際に会場運営状況の確認を実施した。その結果、検定実施要項等の通り実施されていることを確認した。

### ●大項目Ⅲ 検定試験の試験問題に関する事項

検定試験の目的や内容は明確であり、学習指導要領に準拠して問題作りを行っている。測定する学力に応じて、知識・技能を適切に測る手法として主に記述式の問題を採用している。審査の基準は公開され、複数の担当者や外部の専門家等により検証を行うなど継続的に改善する体制が整備されている。

●大項目IV 継続的な学習支援・検定試験の活用促進

検定試験の結果について、個人受検者には「個別成績票」に設問ごとの正誤や総評を示すとともに成績に応じたチャレンジ問題を提示し、団体受検の指導者用には「団体別成績票」を提供するなど、継続的な学習支援を行っている。また、合格体験記や活用事例をHP等に公開し、企業における数学と仕事との関わりを紹介するなど、検定試験の結果が社会に適切に評価・活用されるように取り組んでいる。

6. 評価得点

大項目	満点	得点	得点率
I 検定試験の実施主体に関する事項	27	27	100%
II 検定試験の実施に関する事項	50	50	100%
III 検定試験の試験問題に関する事項	16	16	100%
IV 継続的な学習支援・検定試験の活用促進	12	12	100%
合計	105	105	100%
加点		5	
総合計	105	110	105%